



# 青葉

## 8, 9月

わたらしく あなたらしく  
みんななかよし 青葉の子

## HOME

校長 鈴木 彰

以前、夏休み明けの初日に学校に来た子に、「ただいま。」と言われたことがあります。私の所によく遊びに来る子だったからということもありますが、それにしても学校に登校してきて「ただいま。」と言われたのには少しの驚きがありました。でも、次の瞬間にとてもしゃあらしい気持ちになって、笑顔で「おかえり。」と返しました。この子にとって学校が、「帰ってくる場所」だったのは本当にうれしいことでした。

夏休み中に、本校の校庭で、桜台夏まつりが開かれました。もう「第43回」なのですが、近年は中止が続いて4年ぶりの実施です。「久々のお祭り！」と、子どもたちは大喜びしていました。祭りに参加する人はその日だけなのですが、計画・実行する方々は何か月も前から準備を始めています。まだコロナがⅡ類からⅤ類に変更される時期での企画でしたから、実施か中止かということから悩み、内容も方法もどうするかと、大変なご苦労があったことと思います。



その担当の方の中のお一人が、おっしゃっていました。  
「子どもたちを喜ばせてやりたいからな。『ここに住んでいてよかった』ってよ。」

と。  
「いつか、『子どものころにこんなお祭りがあってね…。』と思い出して話して、この街に帰ってきたくなるような、そんな街にしたいねえ。」

と。  
私は、「ああ、いいなあ。」と、すがすがしい気持ちで聴いていました。

家も、学校も、街も……。『帰ってきたくなる』ような場所でありたいです。

自分の家がある故郷を HOUSE TOWN とは言いません。HOME TOWN です。いつか帰ってきたいと思う HOME TOWN は、HOUSE という「箱」ではなく、人とのふれあいやあたたかいぬくもりがある「HOME」なのです。アットホーム・スイートホームなど、ホームの付く言葉は、どれもほっとするような人のぬくもりを感じます。この青葉台の街は、ふれあいやぬくもりのあふれる HOME です。

青葉台というホームタウンに来てよかったと、心から思っています。夏休みが終わってまた新しい毎日が始まりますが、青葉台小学校もHOMEと感じられるような学校に育てていきたいと、あらためて強く感じています。